

物流・製造の現場課題を解決する 新プロダクトについて

2025.6.30

パナソニック コネクト株式会社

Panasonic
CONNECT

Agenda

1. はじめに
2. 新サービスおよびエコシステムについて
3. パナソニック コネクトとの協業で広がる
未来の物流ビジョン
4. 新サービスデモ
5. 質疑応答

登壇者紹介



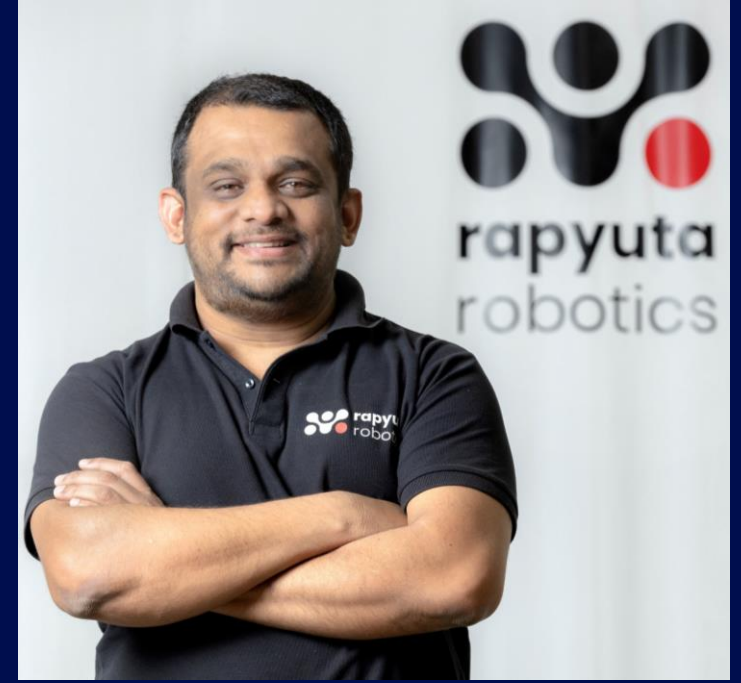
パナソニック コネクト株式会社
シニア・ヴァイス・プレジデント
CTO マネージングダイレクター

榊原 彰



パナソニック コネクト株式会社
SaaSビジネスユニット
ダイレクター

牛島 敏



ラピュタロボティクス株式会社
代表取締役CEO

モーハナラジャー・
ガジャン 様

パナソニック コネクトの国内SCM事業コンセプト 「現場から始める全体最適化」

計画領域

製造データ

物流データ

流通データ

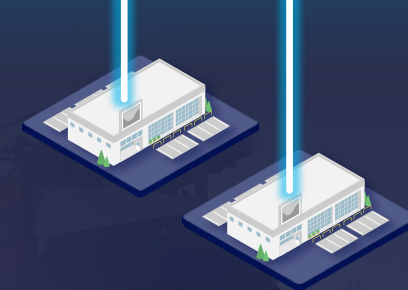
実行領域



造る
製造



運ぶ
物流



売る
流通

パナソニック コネクトの国内SCM事業コンセプト 「現場から始める全体最適化」

計画領域

製造データ

物流データ

流通データ

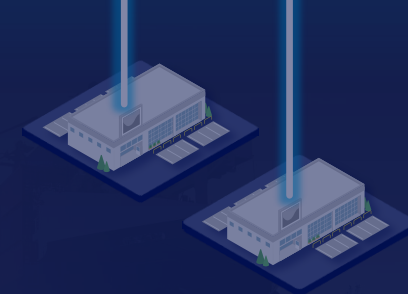
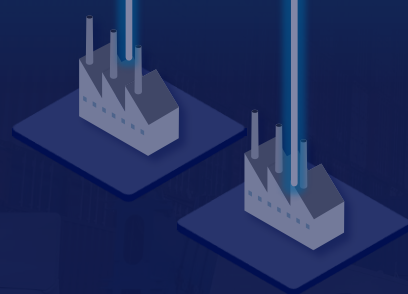
ロボットの現場導入サービス

実行領域

造る
製造

運ぶ
物流

売る
流通



Agenda

1. はじめに
2. 新サービスおよびエコシステムについて
3. パナソニック コネクトとの協業で広がる
未来の物流ビジョン
4. 新サービスデモ
5. 質疑応答

パナソニック コネクトの国内SCM事業コンセプト

「現場から始める全体最適化」

計画領域

製造データ

物流データ

流通データ

ロボットの現場導入サービス

実行領域

造る
製造

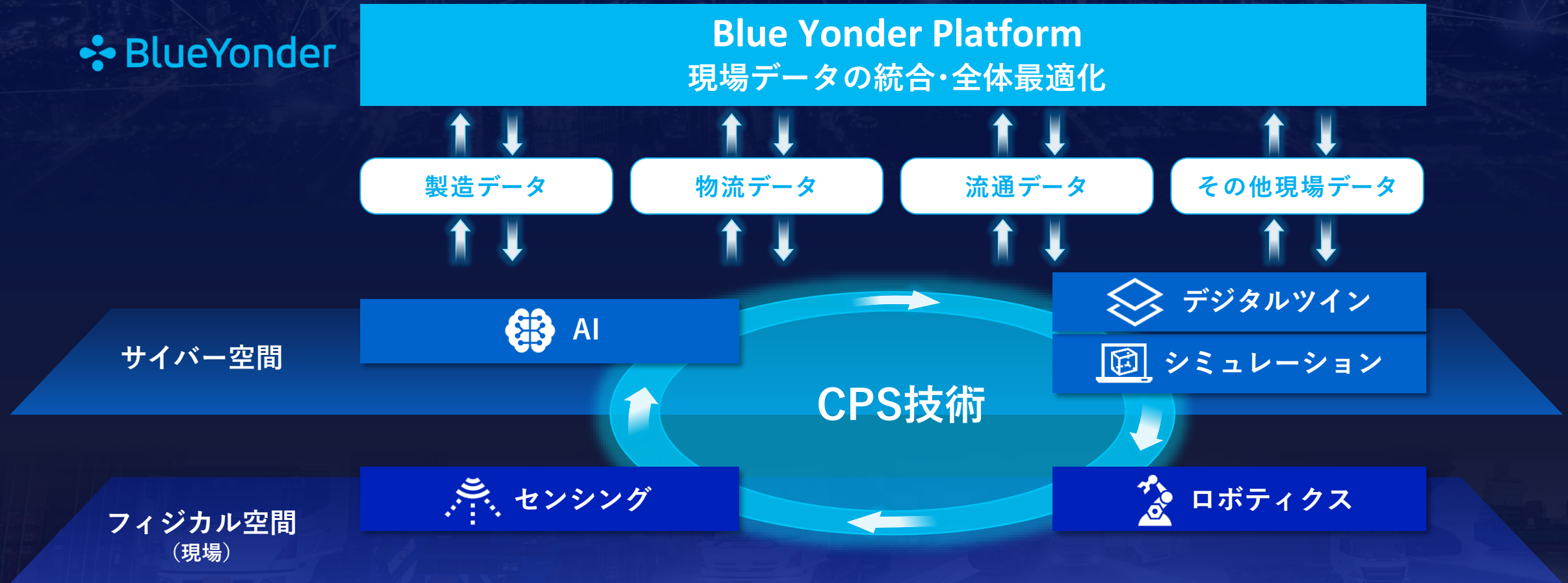
運ぶ
物流

売る
流通



実現したい世界観

現場課題を解決するCPS技術を中心とした研究開発を推進



パナソニック コネクト R&D部門グローバル体制

主要4拠点に約400名が在籍、研究開発からSaaS事業化まで一貫した取り組み

グローバル



ヨーロッパR&D

- ・欧州キーカスタマーとのPoC開発と実施
- ・欧州グループ会社への事業貢献



ドイツ研

- ・AI先進領域の研究開発
- ・欧州グループ会社とのAI領域での連携



ベトナム研

- ・クラウドソリューションのオフショア開発拠点



Blue Yonder

- ・BY顧客接点を活かしたシナジー創出
- ・BYとのジョイントソリューションの推進



シンガポール研

- ・アジア市場向けPoC機能
- ・現地アカデミアとの連携

日本国内

大阪・京橋



福岡・美野島



本社 東京・浜離宮

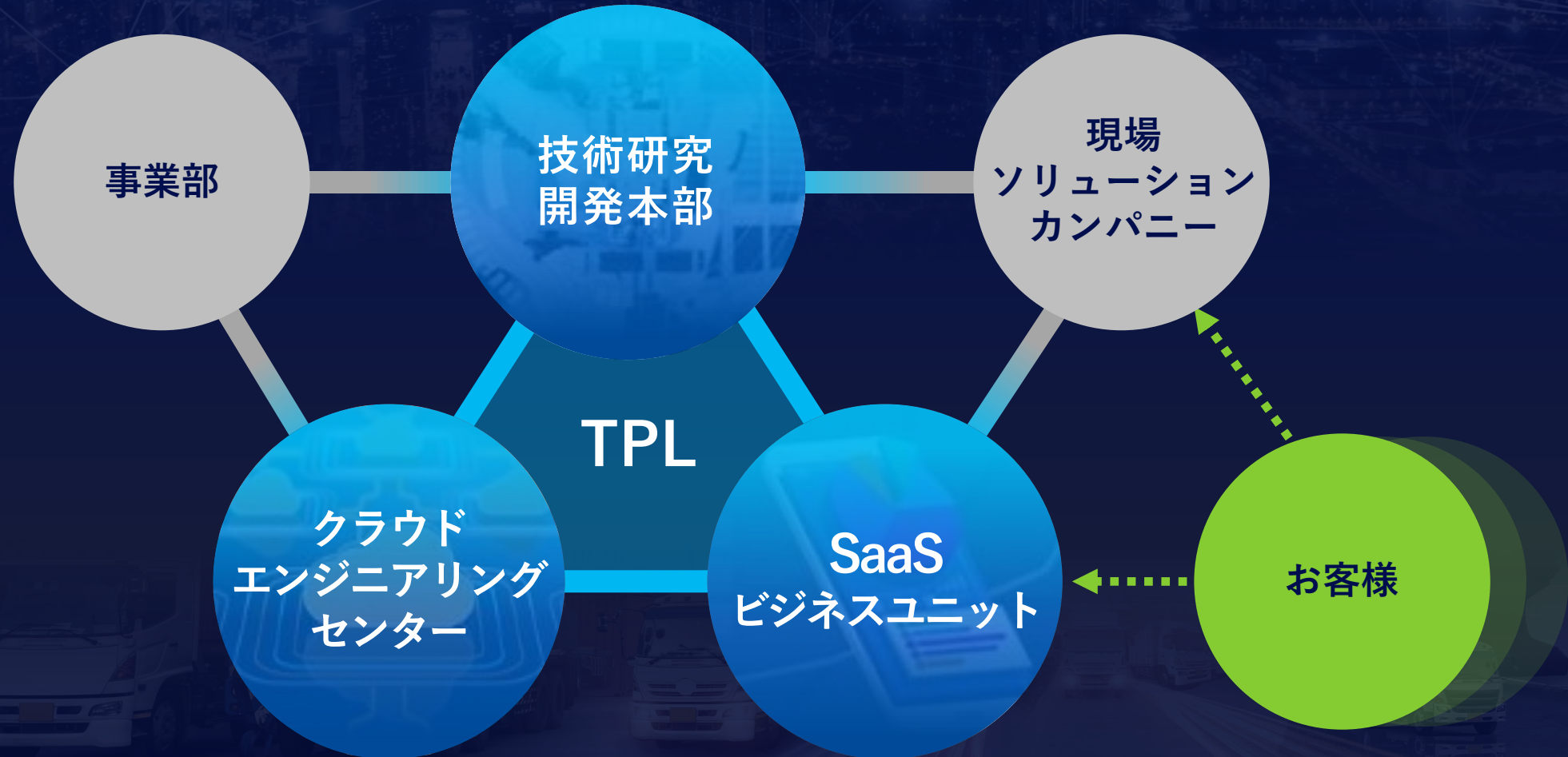


横浜・佐江戸



Technology Product Line(TPL) による事業探索

グローバル研究開発・共創活動からSaaS事業化までを一気通貫で推進



Connect Idea Forge

社内外パートナーとの共創の場をオープン 横浜拠点



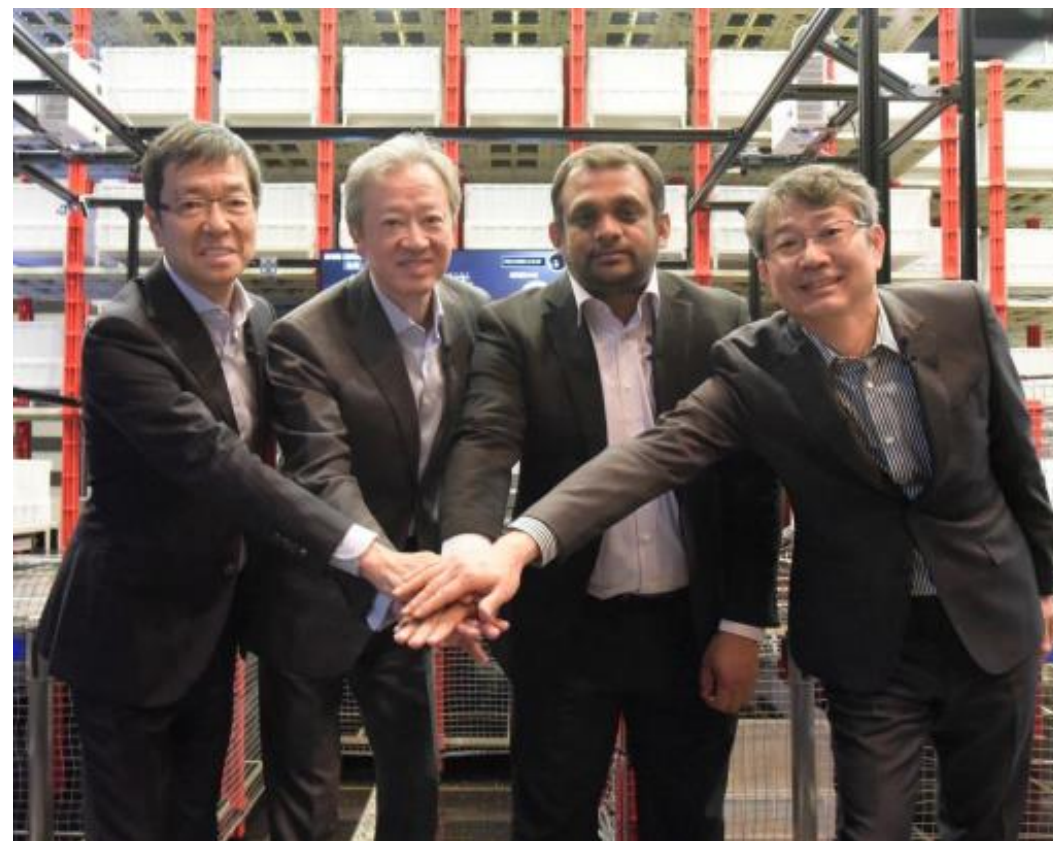
2024年3月8日

ラピュタロボティクス社との戦略的パートナーシップ

Panasonic
CONNECT

「物流課題を解決する新技術」の記者発表会
ラピュタロボティクス社との共同開発スタートを発表

rapyuta
robotics



Agenda

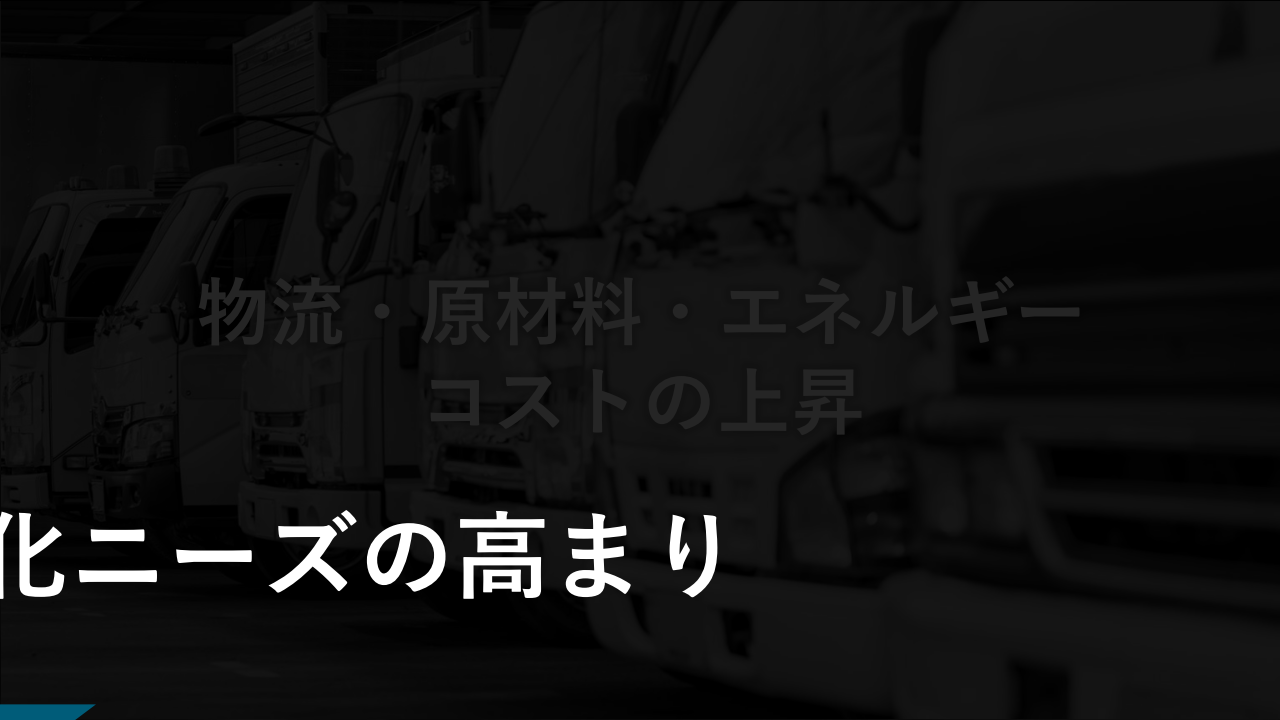
1. はじめに
2. 新サービスおよびエコシステムについて
3. パナソニック コネクトとの協業で広がる
未来の物流ビジョン
4. 新サービスデモ
5. 質疑応答



サプライチェーンの複雑化・高度化



労働力の不足

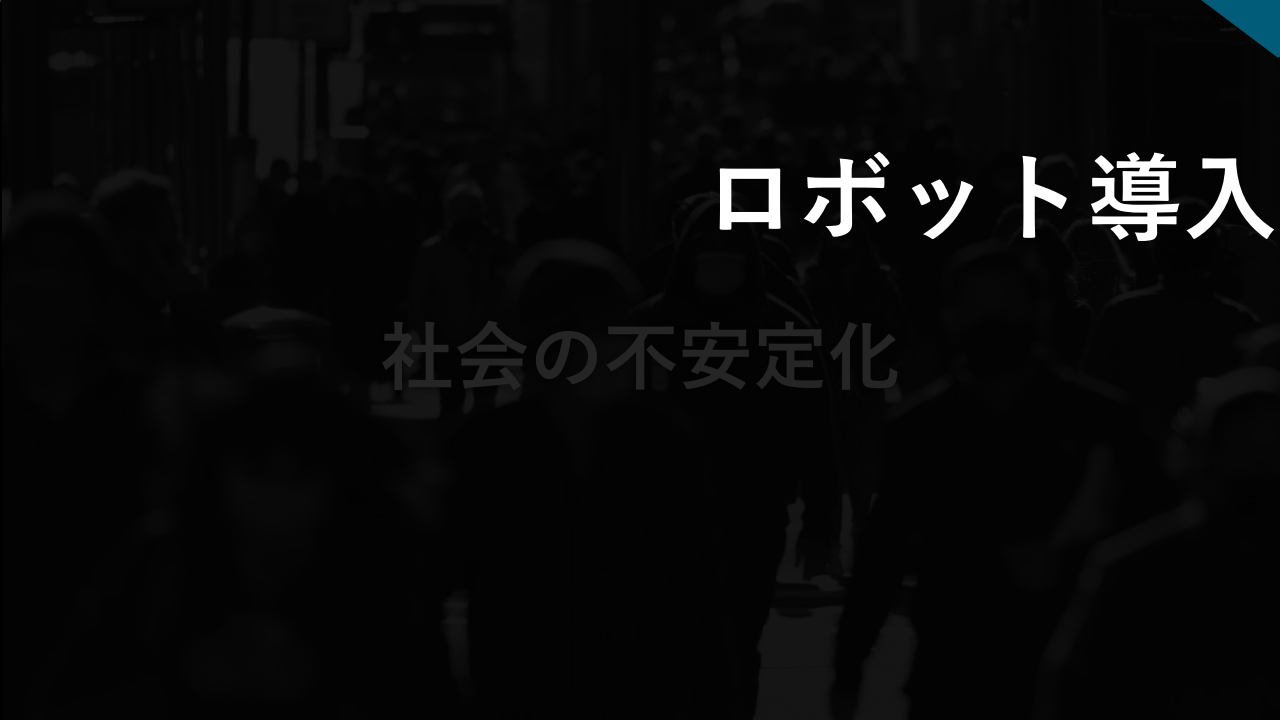


物流・原材料・エネルギー
コストの上昇

生産性向上・自動化ニーズの高まり



ロボット導入の検討が増加



社会の不安定化



環境問題への対応

自動化に向けたロボット導入・事業拡大の障壁

企業やロボットSler、双方にハードルが存在



ロボットを導入したい企業

▲リテラシー・経験値の観点

ロボットに関する知見の不足や情報格差

▲費用の観点

導入による経営効果が不明確

▲人材・スキルの観点

導入後に変更や保守ができる人材がない



導入を支援するロボットSler

▲顧客要件の観点

オーダーメイドの案件や
推進中の要件変更が多く、数をこなせない

▲標準化の観点

企業体力や顧客との契約による制約で
パッケージ化や横展開が困難

▲人材・スキルの観点

人材不足・若手エンジニアの育成

自動化に向けたロボット導入・事業拡大の障壁

企業やロボットSler、双方にハードルが存在



ロボットを導入したい企業

▲リテラシー・経験値の観点

ロボットに関する知見の不足や情報格差

▲費用の観点

導入による経営効果が不明確

▲人材・スキルの観点

導入後に変更や保守ができる人材がない



導入を支援するロボットSler

▲顧客要件の観点

オーダーメイドの案件や
推進中の要件変更が多く、数をこなせない

▲標準化の観点

企業体力や顧客との契約による制約で
パッケージ化や横展開が困難

▲人材・スキルの観点

人材不足・若手エンジニアの育成

自動化に向けたロボット導入を促進する新プロダクト



ロボット制御プラットフォーム

UI・ツールを用いて、簡単にロボット導入や様々な機器の一括制御を可能に



2025年10月 提供開始予定

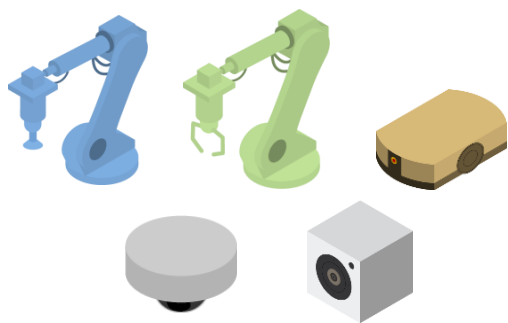
「ロボット制御プラットフォーム」とは

様々なメーカーのロボットや機器を簡単に一元制御可能とすることで
ロボットSierと導入希望企業、双方の導入ハードルを下げる

特長①

マルチロボットメーカー対応

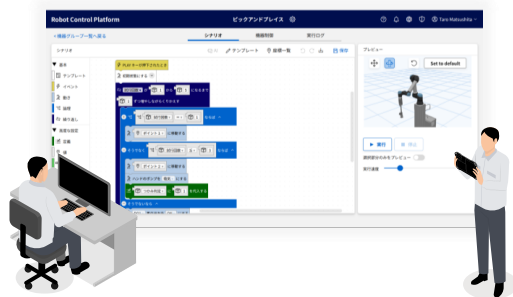
様々なメーカーの
ロボットや機器を一元制御



特長②

ビジュアルプログラミング

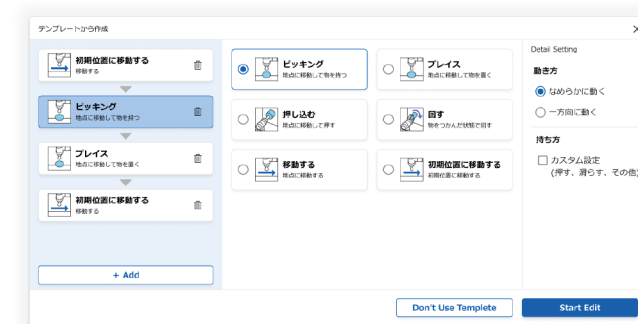
ブロックの組合せで
ロボットの動作を簡単作成



特長③

標準設定テンプレート

主要な動作が組込まれた
テンプレートで、用途変更や
新たな用途への展開が容易

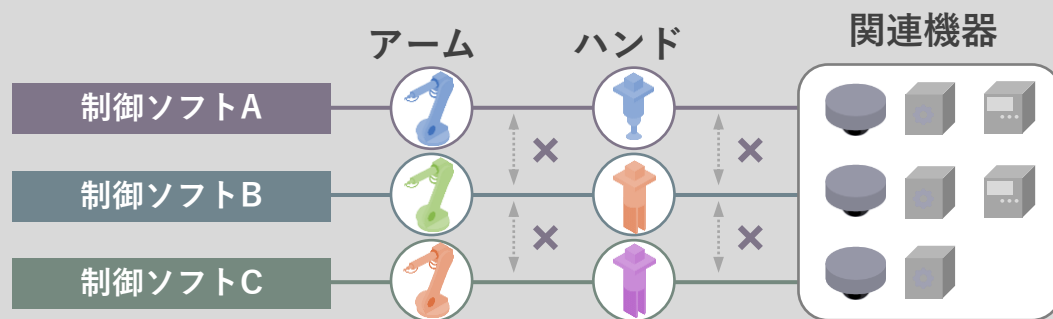


特長 ① マルチロボットメーカー対応

様々なメーカーのロボットや機器を一元的に制御可能

Before

- △ メーカーごとに異なるソフトウェアの操作必要
- △ ロボットの変更コストが高価

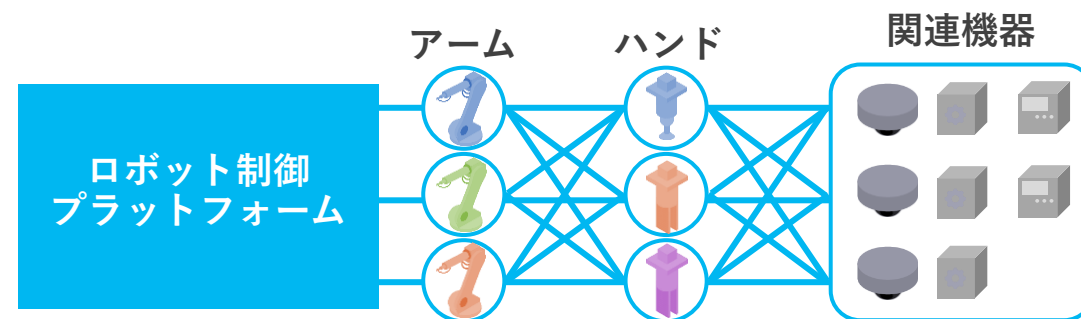


△ スキルの属人化 → 限られた件数



After

- ◎ 同じインターフェースで一元制御可能
- ◎ 別ロボットへの変更も容易に



◎ スキルの平準化 → 多くの件数に対応

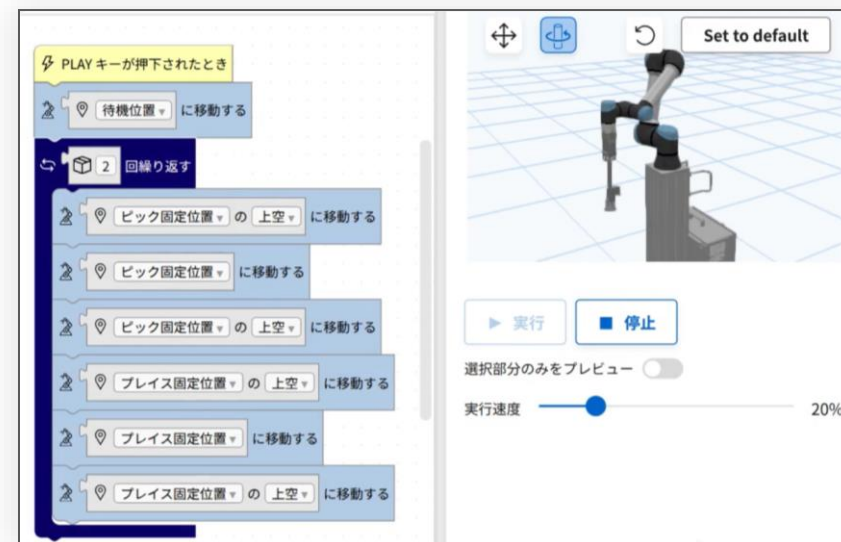


特長② ビジュアルプログラミング

ブロックの組合せで、ロボットの動作を簡単作成

動作や検出など、機能ごとに
分かれたブロックを組み合わせ
簡単に動作作成

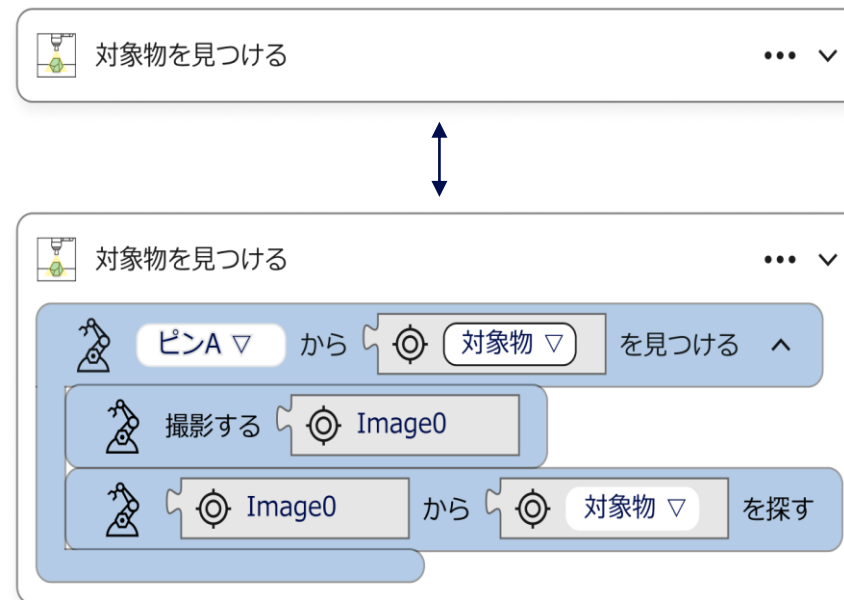
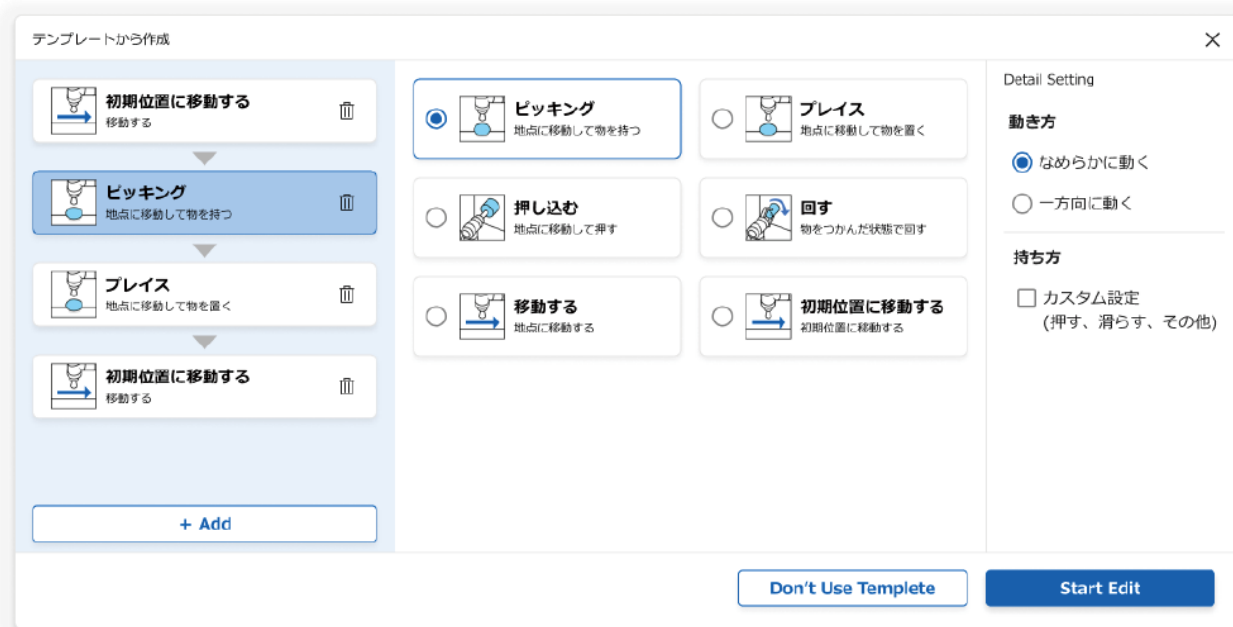
ロボットと周辺設備を再現した
プレビュー上で、動きを確認しながら
簡単に動作作成



特長③ 標準設定テンプレート

主要な動作が組込まれたテンプレートで用途変更や展開が容易

代表的な動作は、ブロックが既に組み合わされたテンプレートブロックとして使用できる



ロボット制御プラットフォームのターゲットと取り組む意義

ターゲット



産業用ロボットではなく
協働ロボットや搬送ロボットに対応

取り組む意義



新たな用途や機能などを
自社の拠点で試すことで導入スピードを加速



協働ロボットを持たないニュートラルな立場だからこそ
多くの製品に対応



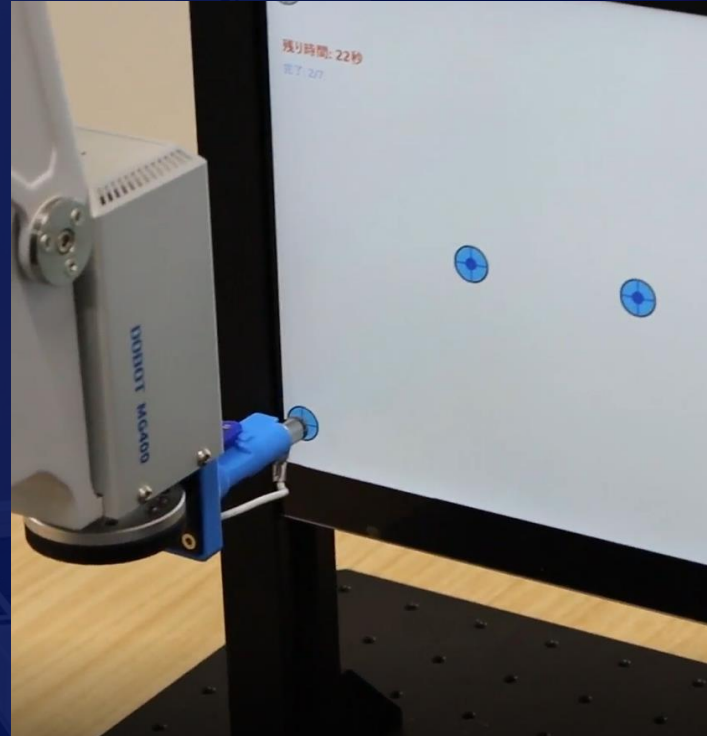
Blue Yonderなど上位システムとのシームレスな連携
によってSCMの全体最適を実現

社内導入事例

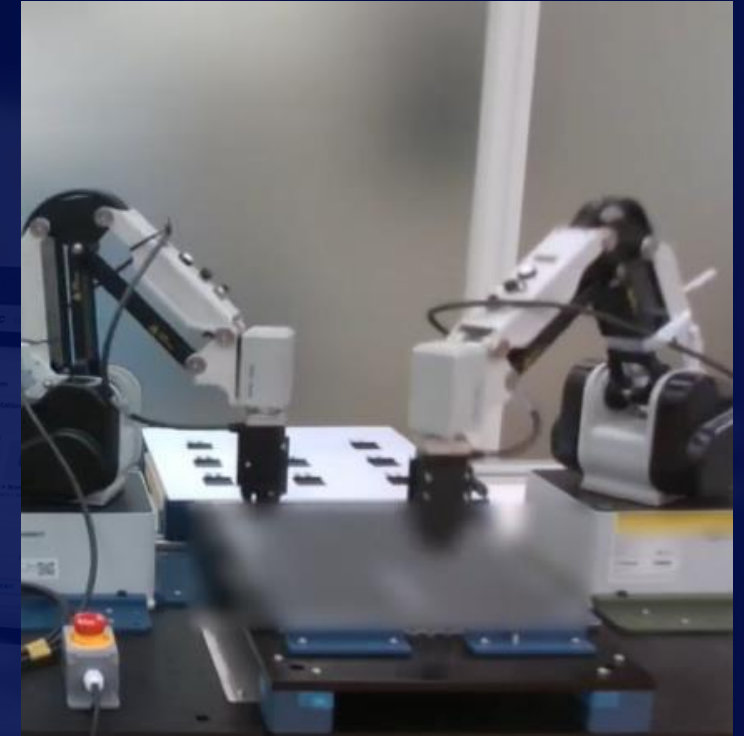
ロボットを早期導入、パナソニックグループの6拠点で活用中



ラベルの貼付工程
(神戸工場 Let's note)



タッチパネルの精度検査工程
(業務用製品)



部品の梱包工程
(コンシューマー製品)

更なる高度化を求めるお客様へ



Cognitive Solutions for Execution (次世代サービス)



フレキシブルな組み合わせ

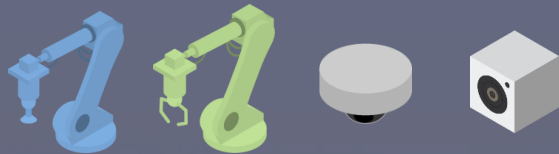
自動化の内容にあわせて柔軟にシステムのスケールアップが可能

上位システムとの連携

Warehouse Management System



ロボット制御プラットフォーム



ロボットの導入

2025年10月 提供開始予定



システム連携サービス

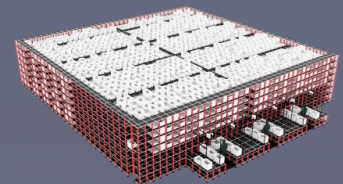


人とロボットの協調

2025年6月30日 提供開始



powered by
rapyuta.io



自動倉庫の導入

ロボット制御プラットフォームのパートナー・エコシステム

パートナー 12社との具体連携がスタート



将来のサービス強化について

残存する障壁を解決するサービスも提供予定



ロボットを導入したい企業

▲リテラシー・経験値の観点

ロボットに関する知見の不足や情報格差

▲費用の観点

導入による経営効果が不明確

▲人材・スキルの観点

導入後に変更や保守ができる人材がない



導入を支援するロボットSler

▲顧客要件の観点

オーダーメイドの案件や
推進中の要件変更が多く、数をこなせない

▲標準化の観点

企業体力や顧客との契約による制約で
パッケージ化や横展開が困難

▲人材・スキルの観点

人材不足・若手エンジニアの育成

将来のサービス強化について

自動化可否および投資対効果を可視化するサービスを開発中 (仮称) 工程自動化支援サービス

INPUT

現状の運用について質問に答えると

ワーク／部品情報

作業／タクト情報

作業エリア情報

オペレーション情報

OUTPUT

自動化可否と投資対効果がすぐにわかる

総合評価

OK

工程自動化により、生産性UPや十分な投資対効果が見込めます

評価項目	評価結果
1. ピック&プレイスの位置精度	OK
2. ロボットの可搬重量	OK
3. ピッキングエリア内の搬送	OK
4. プレイスエリア内の搬送	OK
5. プレイスエリア内の搬送 ピック&プレイス間の搬送	OK
6. アームの自由度	OK
7. 耐久性	OK

性能評価	生産性評価	コスト評価
OK	OK	OK
評価項目	評価結果	評価結果
1. ピック&プレイスの位置精度	OK	年間人件費 4,000,000円
2. ロボットの可搬重量	OK	生産台数 (生産台数1台)
3. ピッキングエリア内の搬送	OK	生産割合 (生産台数1台)
4. プレイスエリア内の搬送	OK	工数削減率 (タクトタイム比)
5. プレイスエリア内の搬送 ピック&プレイス間の搬送	OK	減価償却期間 (設備投資可能期間)
6. アームの自由度	OK	自動化する作業の 人件費(試算)
7. 耐久性	OK	3,600,000円
		自動化率
		1.450,000円

現状と新規の差異 +1.0

※本ツールでの総合評価では、工程の自動化率や設備投資は考慮されていません。
評価結果よりも、性能や生産性評価が低い可能性があるので考慮して判断してください。

性能

生産性

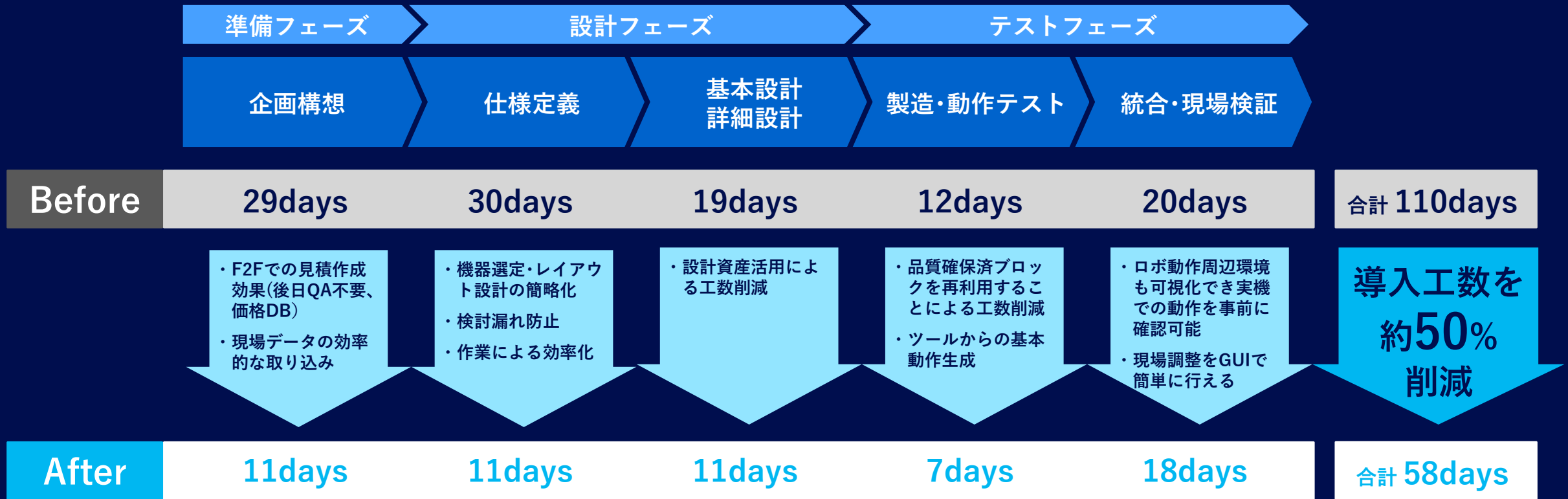
コスト

の3点で評価

顧客やロボットSlerの
自動化検討や経営判断
を支援

社内導入効果の実例（ロボット制御プラットフォーム＋工程自動化支援サービス）

ロボット導入工数を約50%削減 企画から実稼働までのリードタイムを半減することで現場自動化を加速



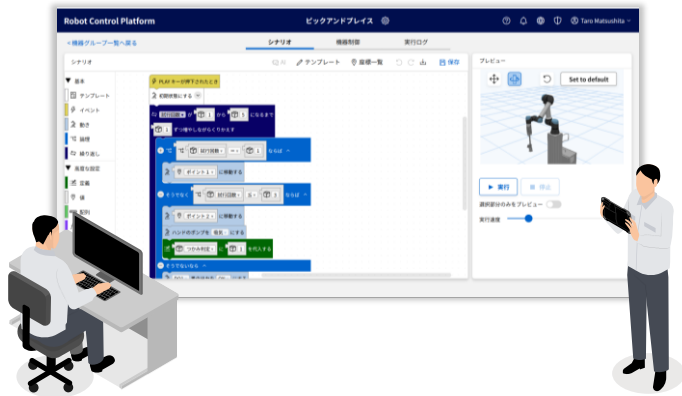
※ 3工程の平均

将来のサービス強化について

生成AIを活用する自動プログラミング機能も開発中



ロボット制御 プラットフォーム



2025年10月：商用版
提供開始予定

(仮称) 工程自動化支援サービス

総合評価			
● OK 工程自動化により、生産性UPや十分な投資対効果が見込めます			
2 性能評価	3 生産性評価	4 コスト評価	
● OK ● OK ● OK			
評価項目	評価項目	評価項目	評価項目
1. ヒックアンドプレースの適用 率	1. 人件費	1. 初期コスト削減	1. 稼働率
OK	13.5%	4,000,000円	95%
2. ロボットの利用効率	2. 生産台数	2. 生産台数(生産日 間)	2. 稼働率(稼働日 間)
OK	30,000台	+0.75	95%
3. ヒックアンドプレースの適用 率	3. 稼働率	3. 稼働率(稼働日 間)	3. 稼働率(稼働日 間)
OK	95%	+0.6	95%
4. プレイスエリアの適用 率	4. ヒックアンドプレースの適用 率	4. 稼働率(稼働日 間)	4. 稼働率(稼働日 間)
OK	6,400	2,000,000円	95%
5. プレイスエリアの適用 率	5. プレイスエリアの適用 率	5. 稼働率(稼働日 間)	5. 稼働率(稼働日 間)
OK	6,400	2,000,000円	95%
6. プレイスエリアの適用 率	6. プレイスエリアの適用 率	6. 稼働率(稼働日 間)	6. 稼働率(稼働日 間)
OK	6,400	2,000,000円	95%
7. 稼働率	7. 稼働率	7. 稼働率(稼働日 間)	7. 稼働率(稼働日 間)
OK	95%	2,000,000円	95%
合計	合計	合計	合計
13.5%	30,000台	+0.75	95%
稼働率と稼働率の差	稼働率と稼働率の差	稼働率と稼働率の差	稼働率と稼働率の差
+1.0	+1.0	+1.0	+1.0

2025年10月：α版（先行評価版）
提供開始予定

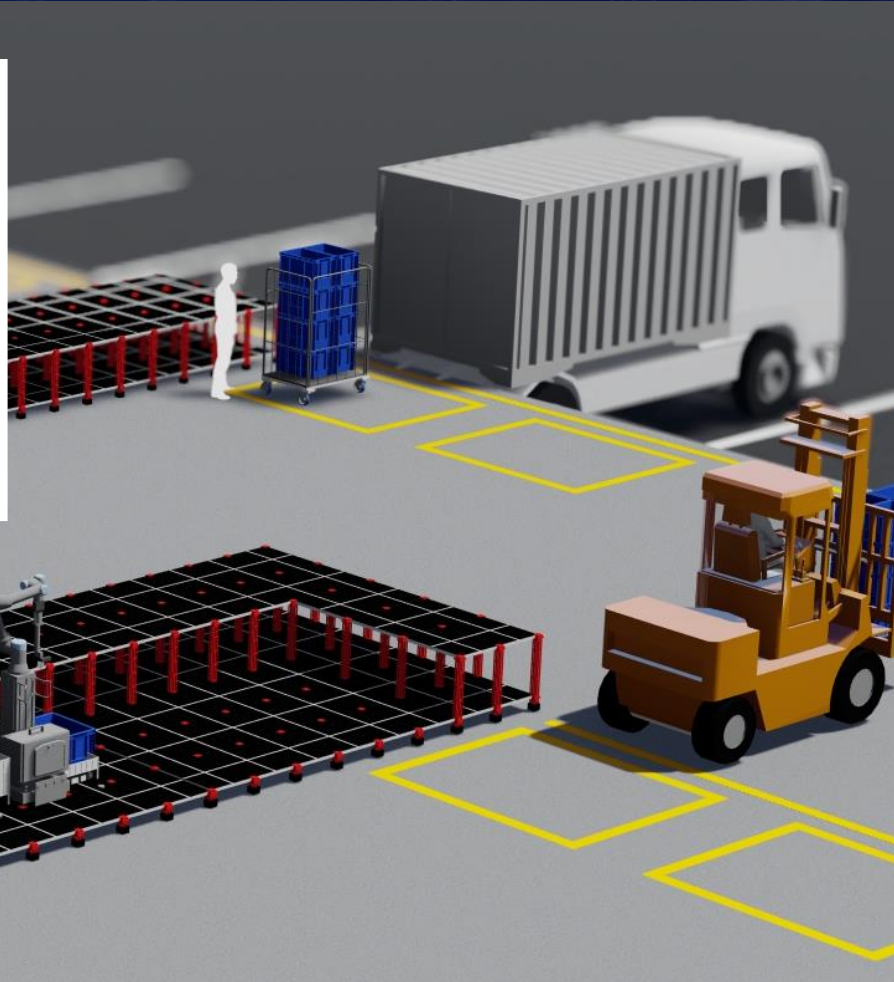
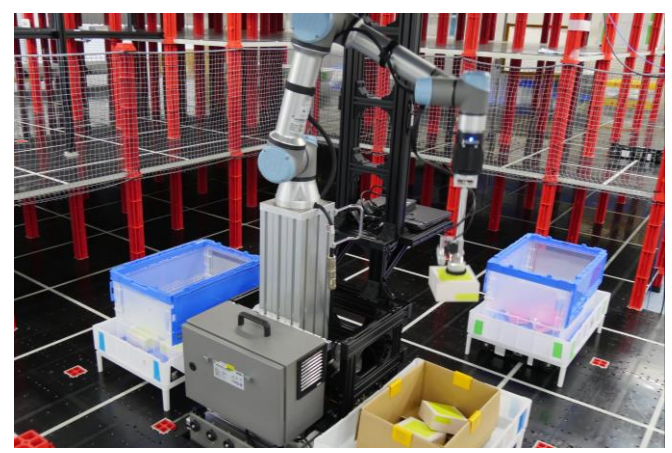
生成AIによる 自動プログラミング



開発中

ラピュタロボティクス社との共同開発・マーケティング

人ピッキング作業の自動化に加え前後工程との同期による最適化



Panasonic **CONNECT**



システム連携サービス



Panasonic **CONNECT**



ロボット制御
プラットフォーム

自在型自動倉庫
ラピュタ ASRS



ロボットメーカー

戦略パートナー

2025年10月
提供開始予定

Agenda

1. はじめに
2. 新サービスおよびエコシステムについて
3. パナソニック コネクトとの協業で広がる
未来の物流ビジョン
4. 新サービスデモ
5. 質疑応答



パナソニック コネクト との協業で広がる 未来の物流ビジョン



モーハナラジャー
ガジャン

代表取締役 CEO
ラピュタロボティクス





Making Robots More Accessible

ロボットをもっと身近に。人にやさしいロボティクスを。

5

東京・大阪等
世界5拠点

700+

稼働中の
ロボット数

250+

弊社で働く
従業員数

56%

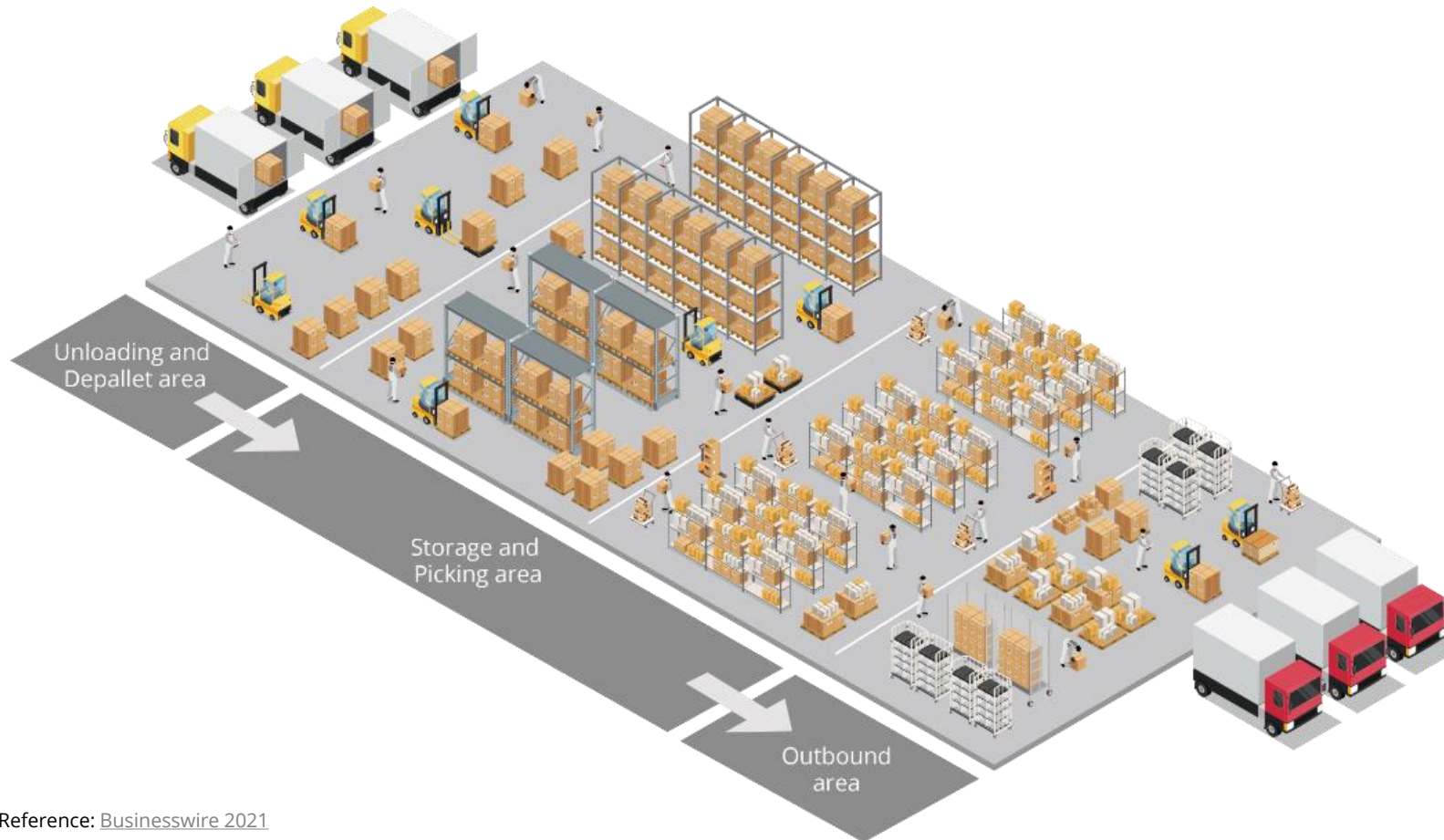
全従業員中
技術者割合

34

世界34か国籍
の従業員

倉庫内作業の課題点

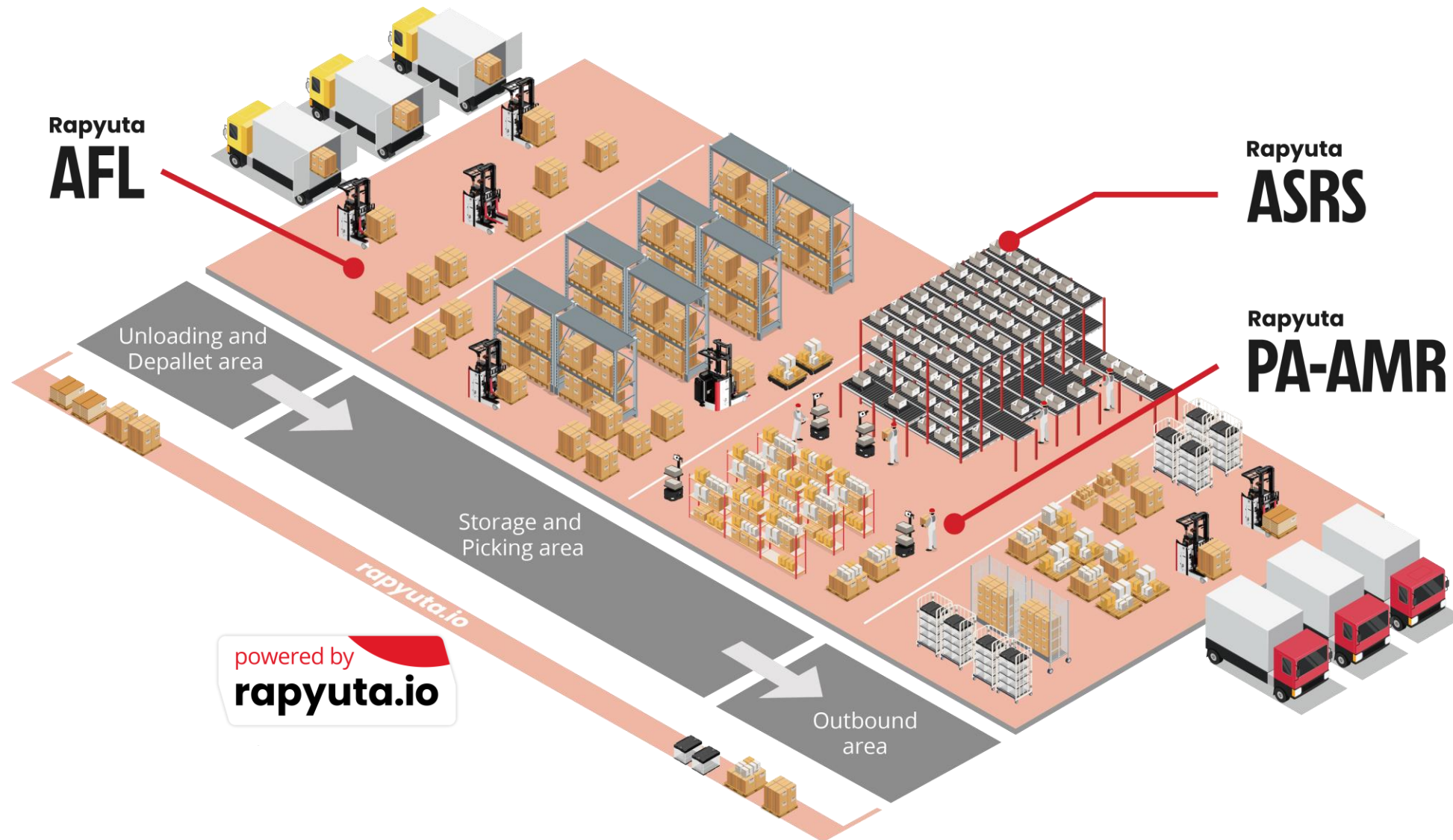
1. 物流倉庫の作業のほとんどが**手作業に依存**している。倉庫における作業の約80%は一切自動化されておらず、高度な自動化技術を活用しているのはわずか5%*。
2. 手作業やマテハン機器による作業は、変化の激しいコロナ後の**"VUCA"の時代**に適さない



VUCA



ラピュタロボティクスソリューション



自動倉庫が解決する課題

歩行時間の割合

77% 以上

空間的なロス

70% 以上



新規倉庫だけでなく既存倉庫にも

「自在型」自動倉庫で柔軟性と生産性を両立



自在型自動倉庫

ラピュタ ASRS

導入効果まとめ

定量効果

*生産性

最大

10倍

*保管効率

最大

2.5倍

* マニュアルピッキング（一般的な軽量棚の空間容積率13% / 1時間当たり60行/人）との比較

定性効果

業務効率化
業務標準化

“誰が作業しても同じ”

設備投資
リスク最小化

“変化に強い”



採用事例も続々増加

2023年8月営業開始より現在**16社**決定済（2025年6月時点）



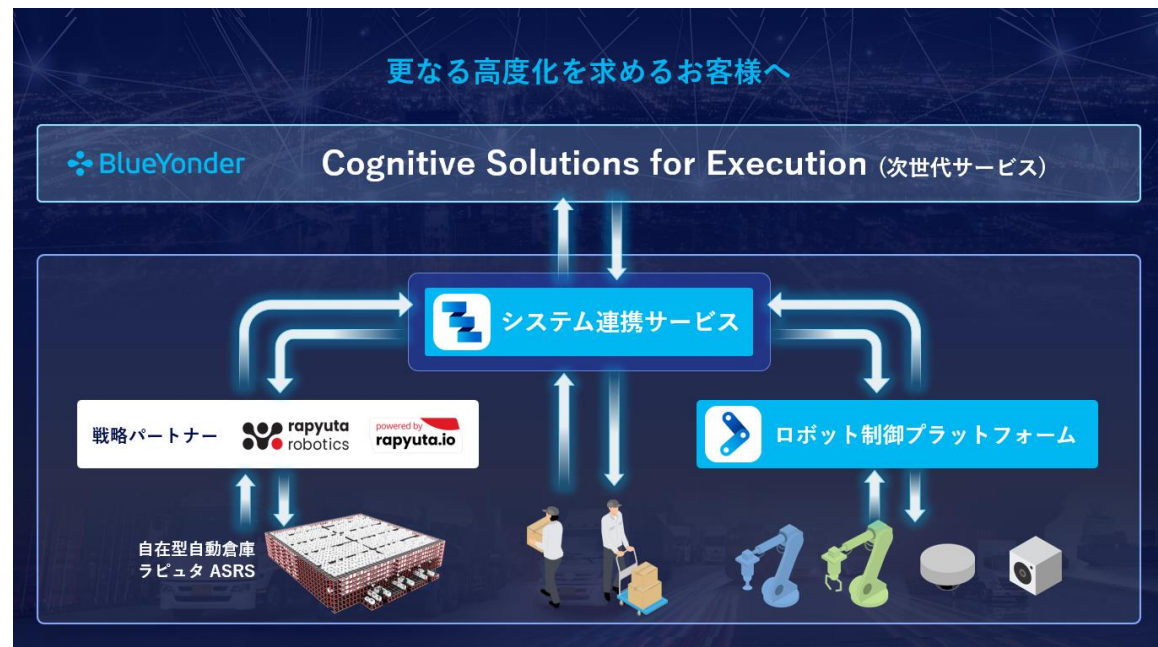
Agenda

1. はじめに
2. 新サービスおよびエコシステムについて
3. パナソニック コネクトとの協業で広がる
未来の物流ビジョン
4. 新サービスデモ
5. 質疑応答

本日のデモについて

デモ ①

共創パートナーとの共同ソリューション



デモ ②

ロボット制御プラットフォーム

「ロボット制御プラットフォーム」とは

様々なメーカーのロボットや機器を簡単に一元制御可能とすることで
ロボットSlurと導入希望企業、双方の導入ハードルを下げる

特長①
マルチロボットメーカー対応

様々なメーカーの
ロボットや機器を一元制御



特長②
ビジュアルプログラミング

ブロックの組合せで
ロボットの動作を簡単作成



特長③
標準設定テンプレート

主要な動作が組込まれた
テンプレートで、用途変更や
新たな用途への展開が容易



「現場から始める全体最適化」で

お客様とともに 日本企業のSCMを変革



パートナー様との協業で
ロボット産業全体を盛り上げる

The background is a dark blue field filled with a repeating pattern of light blue geometric shapes, including squares, rectangles, and semi-circles. The shapes are arranged in a way that creates a sense of depth and movement. The Panasonic logo is centered in the upper half of the image.

Panasonic CONNECT